

再生医療をはじめます

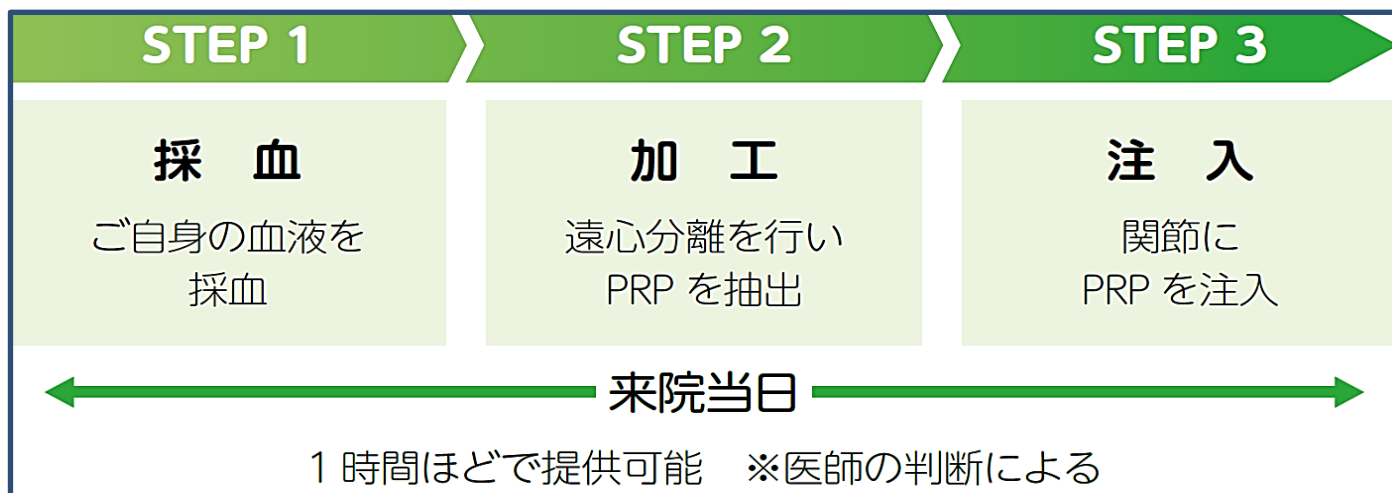
～ PRP療法/APS療法 ～

2023年3月 開始予定

変形性ひざ関節症治療では、消炎鎮痛薬やヒアルロン酸注射などの保存療法と、人工関節手術の中間的な治療となります



入院や手術の必要はなく、外来(予約日)当日の治療となります
ご自身の血液を少量採血のうえ、院内で加工後、関節に注射する流れとなります



再生医療 PRP療法/APS療法

✓ PRP療法/APS療法は再生医療のひとつで、日本では再生医療等安全性確保法のもと、特定認定再生医療等委員会審査を通過し、再生医療等提供計画が厚労省に受理された、県下でも数少ない医療機関でのみ提供できる**全額自費診療**の治療です。



松本 祐希
人工関節センター長

PRP とは？

血液の中には、傷を治す働きを持つ「血小板」という成分があります。この血小板を高濃度に凝縮し活性化させたものが、PRP : Platelet-Rich Plasma (多血小板血漿)です。PRPにはたくさんの成長因子が含まれていて、細胞の成長を促進する力があります。この力が、人の本来持っている治癒能力や組織修復能力・再生能力を最大限に引き出し、傷んだ関節軟骨・靭帯などの治癒をうながすと考えられています。

PRP 治療について

患者様ご自身の血液から作製した PRP を患部に注射する治療です。

PRP 作製は医療機器として治療に使用すること（安全性）が厚生労働省より認められた医療機器を使用します。患者様ご自身の血液を用いるため、免疫反応の起きる可能性は極めて低いと考えられます。

また、採血と注射のみで終わるため、患者様の体への負担も少なく済みます。治療効果や効果の持続期間には個人差があります。



① 患者様の血液を約2.6～5.5mL又は約2.7mL取りります。



② 血液を遠心分離機にかけ、PRPを作製します。



③ PRPを患部に注射します。

✓ **関節・腱・靭帯などの痛みに対応**
整形外科外来受診のうえ、医師にご相談ください。

APS療法は、

次世代のPRP療法と言われ、PRPをさらに加工し、炎症を抑えるはたらきをする「抗炎症性サイトカインや成長因子」を濃縮したもの

APS (自己たんぱく質溶液)を抽出、このAPSを関節などへ注射することにより、PRP療法より長期的に継続する組織の修復効果・抗炎症効果が期待される治療です。